令和５年度
埼玉県新たな地域クラブ活動実証事業
地域ミーティング（成果報告等）
令和６年１月31日（水）：秩父地方庁舎

吉見町立吉見中学校との連携事業その５

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ事務局
武蔵丘短期大学健康生活学科
健康マネジメント専攻　特任教授　太田あや子

本日の内容

１．令和５年度実証事業の概要
２．令和５年度吉見中学校と武蔵丘スポーツクラブとの
　　連携事業の詳細
　２－１．スケジュール
　２－２．３．４．各部の活動
　　各回の内容、学生の反応、生徒の反応、
　　指導者の反応
　　課題
　２－５．カヌー教室の活動
　　内容、課題
　課題

１．令和５年度実証事業の概要（対象）

吉見町　総人口：17,859人

- 世帯数：7,924世帯
- イチゴが有名

吉見町立吉見中学校

開校65周年
生徒数359人
運動部：野球、サッカー、卓球
ソフトテニス、バドミントン、
バスケットボール、陸上競技

武蔵丘短期大学創立33年

男女共学　（定員320名）
健康生活学科
　健康栄養専攻（栄養士）
　健康スポーツ専攻
　（中学校保健体育教員、
　ｱｽﾚﾃｨｯｸﾄﾚｰﾅｰ　ｻｯｶｰC級ｺｰﾁ）

NPO法人武蔵丘スポーツクラブ

設立　平成23年5月9日
代表理事　福島　邦男（ふくしま　くにお）：武蔵丘短期大学健康生活学科健康マネジメント専攻教授
会員：吉見町民他　79名
活動内容：. 武蔵丘短期大学の全面協力のもと、地域自治体と連携して、スポーツ活動や健康づくりを中心に活動している。短期大学の施設、人材を活用してクラブの教室を運営するとともに、地元自治体の委託事業を受託し、毎年10人以上の教員と述べ100名を超える学生ボランティアが活動に参加している。

①定期教室（健康ヨガ教室週3回、骨盤ストレッチ教室月2回、女子サッカーチームシンシア週4回）
②子どもプール教室（7，8月）：9回
③吉見けやき保育所運動指導（月2回）、運動能力測定（春と冬2回）
④吉見町生涯スポーツ事業（親子アクティブ教室（5回）、かけっこ教室（2回）、鉄棒・跳び箱教室）
⑤吉見町健康づくり事業（介護予防運動、脳トレ、ノルディックウォーキング）

１．令和５年度実証事業の実際

（１）目的：

①一町一中学校の事例となる

②総合型地域スポーツクラブの関わり方の事例となる

③短期大学、大学の関わり方の事例となる

以上の観点から実証事業を行う

（２）活動内容：

①短大生との合同練習

バスケットボール部（女子12名）４回12月2日、23日、1月20日、2月17日

陸上競技部（男３女１計4名）3回　12月16日、1月13日、2月10日

サッカー部（男子13名）６回11月18日、12月2日、9日、1月13日、20日、2月3日

②部活別スポーツ栄養指導3回

③野外活動：カヌー教室　（男子1名）（1回：部員以外の参加可）11月19日（日）

（３）活動場所　武蔵丘短期大学
体育館、グラウンド、フットサル場（人工芝）
サッカー場（天然芝）
カヌーリゾートたまよど

（４）指導者（短期大学教員：有資格者）と補助者（強化部活動）

武蔵丘短期大学 女子サッカー部
田本 育代 監督
日本サッカー協会公認
A級コーチ ライセンス

武蔵丘短期大学 女子サッカー部
島田 里緒菜 コーチ
日本サッカー協会公認
C級コーチ ライセンス

川井　明（かわい　あきら）
公財）日本バスケットボール協会公認Bコーチ
公財）日本スポーツ協会コーチデベロッパー

辻　将也（つじ　まさや）
公財）日本陸上競技連盟公認コーチ３

（５）経費負担

有料（500円）での参加　保護者や中学生の理解が得られるか？

（１）根拠：指導者謝金

時給2,000円×2時間=4,000円の指導料を得るために

最少でも500円×8名の参加が必要になる。

月2回で1,000円、月4回で2,000円の保護者の負担感

今まで無償で指導してきた指導者の違和感

（２）経済的困難家庭への補助のあり方

２．実証の結果
生徒、顧問、参加学生アンケート

サッカー生徒・顧問

１．感想
思った以上に強かった。個人個人の動き、連携、声
基礎ができていた。
体の使い方など勉強になった。
レベルの違いを感じた。
★大学生の技術の高さに圧倒され刺激になった。
芝のグラウンドで練習できることがモチベーショナップにつながる。

２．学びたい技術
①パス（正確な、クロスボール）
②トラップ
③ポジショニング
★パスコントロール

サッカー学生・監督

１．感想
①良い点：スピードが速い、パスをつなげている
②改善点：試合中の仲間同士の言葉がけ
③中学生が対戦相手でプレッシャーもあったが、
自分たちらしくプレーできた。
★チームとして戦えていない点が多々あった。

２．中学生に教えたいこと（技術面、フィジカル面）
①チームで戦うこと、チームワーク
②足元の技術
③トラップの質
★サッカーの理解を深め、スキル、フィジカルの必要性を感じてほしい。
★仲間、用具、環境への感謝の気持ちやチームワークを伝えていきたい。

保護者アンケートから（サッカー）

１．感想
楽しくできていた。
レベルが高いので勉強になる。
いろいろな経験ができる。
２．学びたい技術
ボールコントロール
体幹とメンタル
守備
３．サッカー全般
取り組み姿勢（あきらめない、精神的な強さ）

４．次回参加させたいか
参加させたい　7
理由：学べるところがたくさんある
芝のグラウンドなど環境がよい。
近い。
考えさせる指導が期待できる。
５．500円の参加費
適当だと思う　6
あまりかけないで欲しい　1

２－５．カヌー教室

実施日：令和5年11月19日（日）
場所：たまよどカヌーリゾート
内容：薪割、火起こし体験
カヌー操船技術練習とカヌーツアー

① 準備運動後にライフジャケット装着（正しくつけているかの確認方法）
② 陸上でカヌーに乗り、操船のポイント、落ちる姿勢の確認、落ちるのを防ぐ方法、落ちた時の助けてもらう方法を確認
③ 乗船、下船の方法の確認
④ 湖上に漕ぎ出て、前進、後退、停止、方向転換の練習
⑤ ツアーに出発（天候が良かったので上流へとのぼり、下流への下りの両コース110分
    - 動植物を観察したり、滝を見に行ったりした

カヌー教室

指導者
福島　邦男（ふくしま　くにお）
キャンプディレクター1級

３．見えてきた課題

１．中学校と大学のスケジュール調整
（年間計画との調整、前年度に次年度の計画を立てる必要性）

２．有料（500円）での参加　保護者や中学生の理解が得られるか？

３．事故対応　手順（フローチャート）、連絡方法（保護者、中学校、短期大学）、スポーツ安全保険

４．大学側としての課題
リーグ戦などの試合や記録会のピーク時の対応
施設使用料、管理運営の担当
運動部活動指導者や運動部員の理解（今回は協力的）
要望の種目に対応できない場合の対処（大学連携体TJUPなど）

５．地元や近隣市町との連携
行政（教育委員会）、スポーツ少年団、チーム、スポーツ協会

事故対応について

事例：2回目のサッカーのゲーム中に中学生同士の接触事故が発生

対応：①救急車の手配（大学の対応手順に従った）
→たまたま会場にいた保護者が同乗

②短大への連絡（スポーツクラブ職員から）

③入院、手術が決まる→状況の把握に時間がかかり、教頭へ連絡できたのが、夜になった（スポーツクラブ職員から）

④翌月曜日に保護者と連絡を入れ、今後の入院、手術のスケジュールを確認、スポーツ安全保険について中学校と保護者に文書と口頭で説明

⑤翌土曜日の練習日に短大サッカー部員がお見舞いの色紙と動画を作製して、顧問に渡す

⑥翌週、けがをした本人と保護者が短大女子サッカー部の練習場を訪問

⑦その後は通院を続けながら、短大での練習にも顔を出し、リハビリの運動などを行っている